

巻頭言

環境戦略

Environmental Strategy

執行役員
生産本部
栗津工場長

高橋 良定
Y. Takahashi



温室効果ガスによる地球温暖化の進行，途上国で深刻化する水資源不足，新興国の急速な経済発展の裏で深刻化する環境問題など世界中で深刻化する環境問題が唱えられている。

コマツにおいては“ダントツ商品の開発”において，特に環境への配慮に重点を置き他社製品よりも卓越した環境対策を採り入れ“環境面でダントツの特徴を持つ製品の設計”を強化してきた。

中でも排ガス規制においては，ここ数年の Tier3 はもちろんのこと，いよいよ次の Tier4 の開発が目前に迫って来ており，建設機械のキーコンポーネントの自社開発，生産（エンジン，パワーライン，油圧機器，電子機器）の強みと全社的（含む協力企業）チームワークの強みを最大限に生かして，高い目標の商品開発を成功させる努力が続いている。

今年 2008 年は北海道洞爺湖サミットもあり，日本の環境分野でのリーダーシップが試される年とも言われている。日本政府は“環境立国”として主導権獲得を目指し温室効果ガスの長期目標を打ち出しているが，欧州連合（EU）なども強力な目標設定を進め，環境に積極姿勢を示している。それぞれが環境に積極姿勢を示す背景には，その基準の国際標準化によって企業の競争力を確保する狙いがあるとされている。

今後 20～30 年の努力と投資が環境問題の地球的課題とされる今は，コマツの環境戦略を再度考える重要な時である。

コマツの技術者，技術関連部門は“環境が経済やビジネスになった”ことに目をむけ，より一層“環境”というキーワードに注目した技術戦略を考えることが必要だと感じる。

世界の地域（現場）で起きている事実に対して敏感になり戦略を練ると，今後のシナリオ（例えば深刻な食糧危機）への新たな技術開発や解決策が見えてくるだろう。

これは製品開発技術だけでなく，生産技術の分野でも同じである。

技術の強みを基盤としてチャレンジを続け，コマツの全社的チームワークでモノ作りのトータル企業力をさらに高めて行きたい。